

2024年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科・柔道整復科・鍼灸科夜間特修コース

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション演習)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	中村 真通	
単位数	1 単位		実務経験	大学非常勤講師・スクールカウンセラー
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	社会に出てからの対人関係を円滑にするコミュニケーション能力を習得することを目標とします。言語運用能力とプレゼンテーション力を高めることにより、社会人・医療人として求められるコミュニケーション能力を身につけましょう。
授業の一般目標 (G10)	本科目では、コミュニケーションをとる上での基本的な理論・方法論を学び、授業への積極的な参加を通してコミュニケーション能力を高めていくこととなります。また、鍼灸臨床で求められる医療面接の基礎についても学びます。

【担当教員から】

教科書	プリント配布
参考書	小玉正博・松井豊編 中村真通、他著『生涯発達の中のカウンセリングⅣ』（サイエンス社、2014）
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 授業毎課題（80%）・レポート（20%）
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	講義後は、教科書、講義で配布される資料を用いて演習・復習を行うこと。演習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
履修にあたっての留意点	

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	岡崎 弘幸	
単位数	2 単位		実務経験	高校教諭 (生物) ・ 大学非常勤講師 元NHK高校講座講師
		授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	将来、医療道へ進むにあたり、ヒトの体を生物学的視点から見るときの基礎を学ぶ (動物学一般の内容も含む)。その中で、特にヒトの体を構成する細胞、骨格と筋肉収縮、神経系と行動、恒常性の維持 (血液や内分泌系)、生体防御、人間生活を取り巻く環境などを中心に学習する。
授業の一般目標 (G10)	ヒトの体の構造やヒトの体のさまざまな生命現象に興味や関心を持ち、常に疑問を抱きながらその解決に向けて探究心を高める。また基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、他の授業とも関連させることができる。具体的には現代生物学の基礎となる細胞や代謝、健康にかかわる恒常性の維持、ヒトと環境の関係にかかわる生態系などの内容を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等 (教科書は設定しない)
参考書	「解剖生理」 (医療薬出版)、「高校生物基礎」・「生物」の教科書や生物図説
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。
履修にあたっての留意点	オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります (注意)。毎講義後、簡単な課題を行います。

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	佐藤 由紀夫	
単位数	2 単位		実務経験	
		授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	細胞から始まり生物を構成する物質、代謝、遺伝子など生物の基礎を学ぶ。高校生物基礎の学習内容を基本としつつ医療への道へ進む学生の進路に役立つ基礎教養を重点的に学べるような内容とする。
授業の一般目標 (G10)	生物全般の基本を学ぶが特に細胞、DNAと遺伝子、免疫を中心に学ぶ。

【担当教員から】

教科書	授業中に配布する資料を使うため、教科書は設定しない
参考書	高校教科書の「生物」あるいは参考書
成績評価基準	毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合%) 課題(小テスト・レポート等)提出ー100% ※毎授業の課題における総合成績で評価する。
履修にあたっての留意点	課題の評価を合計して60%以上で履修とする。この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物の単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の67%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出席には充分注意してください。

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	西方 祐美子	
単位数	1 単位		実務経験	中学校教諭 (英語)
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	英語を学ぶ意義を考え、医療に必要な英単語等を学び、知識を深める。 日本語の苦手な患者を診察する際に必要な英会話を学び、コミュニケーション能力を高める。
授業の一般目標 (G10)	日常診療で外国人患者を診察する機会がこれから益々増えることを踏まえ、起こり得るシチュエーションをロールプレイ等を通じて体験し、自信を持って対応できるようになる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	やさしい英語で外来診察 (羊土社) 運動動作の英語表現 (医学書院) 音声と例文で覚える、英語医療単語1000 (株; 南雲堂) 病院スタッフ・シチュエーション英会話 (メジカルビュー社)
成績評価基準	試験 出席 課題提出率 (意欲・関心・態度)
成績評価方法	最終講義にて筆記試験を実施。 開講期間中に提出された課題も評価する。
授業時間外必要な学修	授業 (英会話・医療英語) の復習。
履修にあたっての留意点	失敗を恐れずに、積極的に授業に取り組んで欲しい。

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	津野田 聡子	
単位数	2 単位			
		授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。
授業の一般目標 (GIO)	コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。

【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	参考書に関しては必要に応じて指示する。
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
履修にあたっての留意点	課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 、本科目の単位履修には授業の60%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。 提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	吉崎 正恒	
単位数	1 単位		実務経験	高校教諭 (国語)
		授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	漢字の学習、作文の書き方、文章読解の方法などを総合的に学習する。教材はすべてプリントを配付し、それをもって講義を行う。
授業の一般目標 (G10)	これから、さまざまな講義を受けるための読解能力、将来、仕事に就いたときの一般教養など、さまざまな観点から日本語について学ぶ。

【担当教員から】

教科書	
参考書	『パスポート』 (桐原書店) 『常用漢字アルファ』 (桐原書店) ただし、購入の必要なし。すべてプリントを配付する
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	学業成績の評価は、漢字の理解、作文の理解などを中心に試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	配付したプリントの復習
履修にあたっての留意点	将来必要な日本語の知識を習得する気持ちが必要

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	月野和 美砂	
単位数	1 単位		実務経験	
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	人が心身ともに健康に生きる上では食生活は大切です。1日3度の食事により十分な栄養が毎回補給されなければ体は疲れ、やる気もなくなってきます。そこで身体に最も必要な基本の5大栄養素を一つずつ取り上げます。 栄養が入った“食品”群や栄養の入った食品から作った“料理”で日々の栄養バランスをとる方法や基礎代謝や身体活動量などのエネルギー収支について、また各種栄養素の過不足から来る体のさまざまな不快な症状とその予防や改善のための食物、食べ方についてとりあげます。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5大栄養素についてその役割やどのような食材に多いかがわかる。 ・ 各栄養素の過不足がもたらす体の不調を理解する。 ・ BMI を計算し、適正体重を計算することができる。 ・ 栄養素の過不足による体調不良を予防・改善するための食生活上のポイントを理解する。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	<p>学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	Google classroom を利用した遠隔配信授業を行う。レジュメ、音声スライド（動画）を見ながら各自学習し、授業毎課題を期限内に提出してください。
履修にあたっての留意点	提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合は欠席となります。出席要件が規定未達の場合、評価を受けることができないので、提出期限を厳守してください。

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中村 真通	
単位数	1 単位		実務経験	大学非常勤講師・公認心理師
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	遭遇する可能性のある対人関係の問題や精神疾患に対する対応を紹介しつつ、心理療法の概論について学習する。
授業の一般目標 (G10)	1. 心理療法とカウンセリングに関する基本的な考え方について理解する。 2. カウンセリングの対象となる主な対人関係の問題や精神疾患について理解する。 3. 精神分析、交流分析、自律訓練法、行動療法、認知行動療法、来談者中心療法、家族療法の理論と技法を理解する。

【担当教員から】

教科書	プリント配布：心理療法についてさらに詳しく学びたい方は、窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館、2003）をお勧めします
参考書	小玉正博・松井豊編 中村真通、他著『生涯発達の中のカウンセリングⅣ』（サイエンス社、2014）
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	Google classroom を利用した遠隔配信授業を行う。レジメ、音声スライド（動画）を見ながら各自学習し、授業毎課題を期限内に提出してください。
履修にあたっての留意点	提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合は欠席となります。出席要件が規定未達の場合、評価を受けることができないので、提出期限を厳

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	長野 慎一	
単位数	1 単位		実務経験	
		授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	<p>社会福祉の全体像を概括的に学びます。具体的には次の各点に焦点を当てます。</p> <p>(1) 社会福祉の実践の根底にある理念とはどのようなものであるのか</p> <p>(2) 福祉を必要とする人にこれを供給するための仕組みとしてどのようなものがあるのか</p> <p>(3) 上記の(1)や(2)は国や地域に応じてどう異なるのか</p> <p>授業は、これらの問いに導かれる形で展開されます。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>(1) 福祉の根底にある理念を理解し、自ら咀嚼して表現できるようになる。</p> <p>(2) 社会福祉に関する制度について正しく理解し、それを表現できるようになる。</p> <p>(3) 自ら暮らす日本社会における福祉供給体制について、他の地域・国と比較することで理解し、相対的に考えることができるようになる。</p>

【担当教員から】

教科書	なし
参考書	授業内にレジュメで指示します。
成績評価基準	<p>以下の各点を、課題で問います。</p> <p>(1) 授業で説明した知識を理解し表現できるか。</p> <p>(2) 授業で説明した知識を用いて、自ら社会福祉について思考を深め、それを表現できるか。</p>
成績評価方法	<p>学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	各授業に対して復習を1時間
履修にあたっての留意点	<p>社会福祉という語を聞いても、ほとんどの人が、漠然とした内容しか思い浮かばないのではないのでしょうか。本講義では、日本社会の具体的制度を取り上げ、社会福祉が意味するところを具体的に知ることができます。同時に他国の制度との比較を通して、福祉に対する考え方の多様性に触れることができます。社会福祉の在り方は、皆さまの生(人生・生活・生命)の在り方を大きく左右します。ぜひ当事者意識をもって積極的に学んでください。</p>

2024年度 鍼灸マッサージ科 I 部・鍼灸科 I 部・鍼灸科夜間特修コース

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ(生体と薬)

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	塗々木 和男	
単位数	2 単位		実務経験	
		授業形態・回数	講義	15回

【授業情報】

授業概要	薬とはどういうものなのかの基礎的知識から、より多くの方が服用する生活習慣病治療薬である抗高血圧薬、高脂血症治療薬、糖尿病治療薬、睡眠薬、抗がん薬、鎮痛薬などの生体への作用・効果を説明します。漢方薬の需要もさらに増している今日、東洋医学における漢方の役割も取り上げます。
授業の一般目標 (GIO)	患者さん自身、医療への意識が非常に高まってきている昨今、皆さんが医療人として患者さんと接したときに話す薬の作用・効果を理解する。

【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等（教科書は設定しない）
参考書	特になし
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績の評価は、毎授業の課題における課題の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と評価方法
授業時間外必要な学修	Google classroomを利用した遠隔配信授業を行う。レジメ、音声スライド（動画）を見ながら各自学習し、授業毎課題を期限内に提出してください。
履修にあたっての留意点	授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

